歳山警仇討

十三
十四

へ13
3322
7

全機業

ベ13
3322
7

大阪市立大学
本大學出版部
昭九百壽
贈

[illegible]山養流付養之格之

同 [illegible]

一 清之帝迦乃[illegible]之危難之

[illegible]年

[illegible]之事

一 [illegible]馬之[illegible]

[illegible]城の[illegible]

一 清水御殿御普請

一 清水御温泉御新御殿

御[illegible]の事

[illegible]山巻繻巻[illegible]指之

清水御池乃清水[illegible]

年

[illegible]の事

[illegible]あ[illegible]桐と

[illegible]船[illegible]

[illegible]御[illegible]

すゝめて勇心なりし人とて相しろうの案
しけし十月中にして御こゝろやみ足痛
みなれ山にてまゝに草あつしたる中とつき
くれ山へくてりろく薬をもとめて
池の端へゆきて来るまにいて足の痛みも引て
くゝる小松の新いみ中にも旅ひろ
一群の家もしくは来りに清き水と
みゆるしもひとへいつてまと掃へ切りて添

跡の群は左に山とされまて〳〵へと
清き水は松林にかゝりて家々と揚
てある足も痛みも去り来月中と待せて
しらんとよろ海わたりてまのもの
あしは端師が谷には海水か手のかけい
ちり掃に法てつてしみつこしつしい御心
あしたるかうしと曲ものたいゐ倒くと
ふ敵ゆもわくうる前をてしまへてと

はや御ハ出てとらへし水葉掛そて池の
すへ探せと作りのとくらうと籾池中へ
ころまじところかましくとまとん
とらえ時り侍ろよりこ人の目を驚る入
こしたえり来り曲者の背中より郎の
いそく切りかうりしり波よの面に飛
いやの猿しや出こきとまとき給くま
はそ中海ハ組和主馬とらやきを
あわり家と助けくりあまと猿太海えそ
くしてきうりけるま主馬ハころくいそて
群うて話て語りくれ太海ハ二人をと
たかす切倒し主馬用しく二人と切殺
なさえハ曲者のこしもハ叶りしと池てうくと
太郎さ人のくてすのま身とし縦く
生けうりそくまたいわれしうちみ
人とやしれくてまとまの尾とてう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

赤坂塘の長さはつゝくしからうの下
がり親方は究めてしつかりの池の
中へ投込まれし三人のものらく私はまけ
くつれたまくとまて掛しもあた六日にまく
親方へ三人鬼士来りてくからへ
おどろくこゝらと佛の像しこ申しが
晩方ふ中ら離こし中ゝノ手中や刀
をノ一文字り生年紀りしと白帳

ゝとは清兵衛遁しけおりノ宿でと
親方は身なまでもかぐりは助けて
岩へ谷くへ病手にまでらのうまでて
ノてく弱りなまでは苦しいとす地へてすると
ほと平ひきて潤と流して走りさぬ
折文清兵衛は其の御覧からへ方ふりむく
までソハ成さ石くの申しと思ひなりと
速駒は数さとあけノ面してあとも知らぬの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くまでは須磨はかなし父はなかりしの
本ゆく伯母の許にて幼き時より
母は命をたのみ我父のころされ給ひ
知らく一二年、今は兄弟の父を恨み
敵とも思はず家の直(すぐ)なる事を
兄弟中よくなりしんぜ(?)として
子ども切りたりし父をうらみて敵
とものとりかへしてかなはぬ人(ひと)を

ふかしなくてもかなはずとおもふ者
いかに人は助けもなりて兄弟の命
敵はまだ今日の命を救ふとも其の助
来しもいまだそのかたなり
北条の時政が千騎の兵を引(ひき)つれ
曽我の里にてかなふまじ
弟の兵を引きてさし寄す
かくて館は無縁なりしに孫子九郎祐(すけ)

新六横根迷ひとて引つきまとひ足揃ひて
いつも酒くのひとりうき家に老人の妻
容貌うるはしく人へハ桜にもあふくも大夫
なりとも縁もなし○とも物うくして
まつらしみえ浪人として右衛門の子なる
舞して浪人して悟蔵とふらし近所の浪人
まつ人とふ母のつまてふりく
家をもとゆへし浦の浮世とり

て日をおくりける時に昔浮世子歌舞の
夫人奉て酒宴あそび筆とりとらせ
山のすくまり一人の男子の女にハ天ぐう
白髪となりて帰り紅し眼も日月の
ごとし新ハ桃宮のごとく盛して酒宴の
席にて来りけり浮世十八の悪業あそび
かりも思ひまて六歌舞をもゆるして酒を
かりし浮世楽をとりけ海河奴もまた六字

専らや酒宴をもよふし日夜のわかちなく
遠近のともから一盃のみてしこゝろよく
出るを山人つねにこゝろにかけたまひ
越し方ゆく末の善悪の道もしらぬもの
ところの山を見て山にて山ぞとさとし
けふもまた月のよにのみかきこもりて
迷ふこゝろもかくやうにもなりけり
秋と思ひしやはや山のふもとにて行末
なにゝてもかくれなき事
風し山人たちまちに雷のごとくかんじける
時のきはみものの手とならん
この山にわけ入に道ある道のみちをたどり
ことにふれて心のうちにもかはらぬ
迷成行かのこし道ひろく山をみて
しるべの道をたのみしより山人
山人たちまちとりて道をしるべし

此山は須弥半天にあけなくもつまと云源なり
新光郡本尊にてうしひさく大日如来の尊形を
あらはせしその功しかるく護摩壇にて秘法
やしくへ諸人母もせし須弥の石そ傍の
ならぬるべきあしからず給ふとひらく
立てにてくれ大ちんだ霊所とうんせんそ
三抱もあらんと大石と傍にて見るべう
ならくさしのみ六所もふり地すそ入る

投げすまはし大石を堀出るの三人ずつ
たくさん人じとえ上とんでも、すまし夢の姿
ごろや子が海とつうさ新たれあまりとでる
手細なくさんて紐し都くまし
ころさわてさまだ竹尾不破が名る
うれ地中ひまつ山の人からと写へい
このし山とこしんでほへくろらふ
清水那箱根の温泉に讃之支

彭くハ清き所に足を痛めて帰らずとも
年くを経しこそかわらぬやむしハ
枝しを見るも長寿の契りハ柳緑の梅も
香のなかにも風のまにまに一ちりこそやくも
桜咲くとまゝ道にも柳ハ風にも靡きて鶯の
声くに頼みしを打ちおき郷の花の草
とへいてそ地にすめる錦の露の面影
小塚草の花しもしらじとあそこく

ぞきこ治まりし中ハ豊なるはもしらむ
よ中一にさ年来のいつ世治まりて長けなく
日揃ふを花ぞへの色こそさかみどりにも
多様つ共まし宮目出てハ猶も千年明日
しや奈良へしとまり庭のとみ全る
指を見しそ是にもかわりまもつくしも
ときは之日の文明も千世まで栄る
若くも知りのかそくへしも日本の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うらみんだりし都をいつしかに住なれし
うしろに古郷とおもひいづる
素服こそと見えしけしきは
をりて武蔵の名ある梅もしらう
と口ずさみてありける隅田の濁りそめて
まかしあの詠めし都鳥ともあく
よりうふ母をまつる
清水濁り水そ松若新をまつる

婚しき封印の年
譲りく清水は湯治場の猪しりめぐりき
なつく古郷の母のすゝめしもひしく文教の
まちの門まてに候ふあへてくもてくださる
とくそこそ寺の湯のくとうふ咲ゆきしに
寂しくも物とみへし所あなくても
こうしてぞ咲入相のかね
と吟そうかうしも備らはしさふらく

只ひとへや所は埋もれし姻そて
是縁ありてとまるんものとれ
と嫁ちると定めく清き所さぶらひ
中々ても申しかたきの事くう都
今年のこの縁はかも世と夏くもの出ひ
て縁さへよろ斎ろくしかふろうき
昔きろしざく世をはしと同じ人もあき
いくつむかしにひうきて様のまことくきよう

志賀けいは年の頃十七八ばかりの美しき女姫見し
けしからぬものとおもふてゆうたつり
去ることは源氏御様と明け暮とほそきぬ
かりにうつりしに是非の相もりやくふみ
かしこみて候ふこと誠ふかうひ
縁のいづれか年を今世しく人の相かのみそれ
かなしくもあはれやしたまふらくへもとて
よろしくさく定めの縁らくとあらぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]庚申山の義

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鳳山巻紙討巻之拾

同 源

一 桜木清之所杉本新之所兄弟の
義と結ぶ事
新之所和田合戦とものがたる
事

嵐山巻紙巻く指石

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和田合戦人々の事

ものゝふのたしなみやはかりにあらしと知りて
ちかひをなしかたらひ給ひしかは
宮の立給ひしとゝもに新しき軍法を学んと
宮人々もつとめ給ひ学問を温ふの
ゆゑにいとまなきまゝに建暦二年八月一日
なりしかは和田義盛時を得たりと思ひ
北条義時を亡ぼさんとの謀を
こらし給ひ二代将軍の御時
合戦の起りは二代将軍の御時
建暦二年二月十六日
に相模国鎌倉の住人和田左衛門尉義盛
は和田一族の
流石のつはものにて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二十余年の後[illegible]して九月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

國のと新しくこゝにも移りし叶ひて世界
の惡心と知りつるもこゝにて
啓のもひ今年思ひとのくも天の御
ゝゝ今い年とおもひて此年とおもひて
年新しくもどんしに鳴神のつゝ
ちん〳〵吉郎新長
新吉ふ三所秋ちゝ長の作七
のゝゝ年いかつの知ゝ思ひて此年

ゝ人のゝ作ゝ年おもひ
中ゝ小年と計ゝ
ゝ作ゝ
ゝ作一小年作
たゝゝ天の作ゝ
遠ゝひ計ん
年ゝ作ゝ知ゝ
ゝゝ作ゝ月ゝの作ゝ

[illegible]
たのもしく思ひて
いう義しく同じ流
[illegible]
[illegible]
平家流長谷
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

如くに宮殿楼閣の所と侍人郡衆
数千万人と幕屋を作りて住りき
元小条にて日本の中に
聖人大にして源氏の人
前世の軍にて言報ずるやうに
大唐の国の前世にいと豊郡にしてし
ぶ宮人の幕屋の様に少条の中に
せりし人にて幕屋のつとめ中てん

とだにつかうまつる保元物
語にて毎日小条のつとめてんとて
北条にこのしるしに屋敷を近
五川に近くて毎日
ら中に出て前世の前に敬と八幡
に切りて小条にふるまひて
中に出て人々きくふる
味にこのあるものふりに敬とぶつ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みもりの組くらうと秀吉様をけもの
番指くりくり少しも知らせなる千歳
くらとまくらの和秀のあの子指くとくくくあけ
て利んくくを和秀のあい月くくくく

ふゝり

嵐山琴佐衛門琴ゝ指口授